

豊後高田市 1 人 1 台端末の利活用に係る計画

【教育 DX に係る当面の KPI（文部科学省）】

整備すべき内容	整備 年度	整備 割合
当該年度に ICT 研修を受講する教員の割合	R6	100%
教師の ICT 活用指導力の向上 ①授業に ICT を活用して指導する能力	R7	100%
教師の ICT 活用指導力の向上 ②児童生徒の ICT 活用を指導する能力	R7	100%
情報通信技術支援員（ICT 支援員）の配置	R7	4 校/人
端末を週 3 回以上活用する学校	R6	100%
デジタル教科書を実践的に活用している学校の割合	R10	100%

【1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿】

教員不足等により学校教育を担う人材は限られているにもかかわらず、児童生徒の多様化（いじめ・不登校・外国籍・特別支援在籍の増加等）が進んでおり、児童生徒 1 人 1 人に応じた指導・支援がより必要になっている。

そこで、ICT の活用自体を目的とせず、ICT を有効活用することで「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現し、多様な児童生徒の資質・能力育成の最大化を図る。

【GIGA 第 1 期の総括】

令和 3 年 4 月に 1 人 1 台タブレットを導入し、当初は特に新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休校、学級閉鎖時の学習保障において活用した。その後もデジタル教科書等の導入を進め、各教科での活用を加速させるだけでなく、探究的な学習における資料の作成、意見発表等に活用してきた。

その中で、本体の消耗や故障による通信遅延や使用上の不具合等のハード面、教員間の利用頻度の差や運用面での業務増加等のソフト面の両面での課題が発生しており、利活用を進めるにあたり、整備等を図る必要がある。

【1 人 1 台端末の利活用方策】

多様な児童生徒の成長の最大化を図れるよう、教員にはこれまで以上に子どもの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することが必要である。さらに、児童生徒が自らの学習の状況を把握し、主体的な学習を促すことも求められる。そのため、端末の整備・更新により児童生徒向けの 1 人 1 台端末環境を引き続き維持するとともに下記のようにタブレット等を効果的に活用していく必要がある。

- ・教育データに基づく児童生徒の実態把握、実態に応じた指導の個別化（各児童生徒の生活・学習進捗状況に合わせた支援の提供）にタブレットを活用する。
- ・授業支援ツール（デジタル教科書等）を活用し、主体的な学びや児童生徒同士での協働的な学びを促す。
- ・児童生徒が日常的に情報端末を活用できるように i P a d の純正アプリ（Keynote 等）の活用を進める。
- ・児童生徒が急速に進化する情報技術を正しく活用し、社会に貢献できる力を育むために、データの利活用や生成 AI などの先端技術を効果的に活用する。
- ・児童生徒の情報活用能力の向上だけでなく、情報モラル学習を強化し、情報発信による他者への影響の理解を深める。